

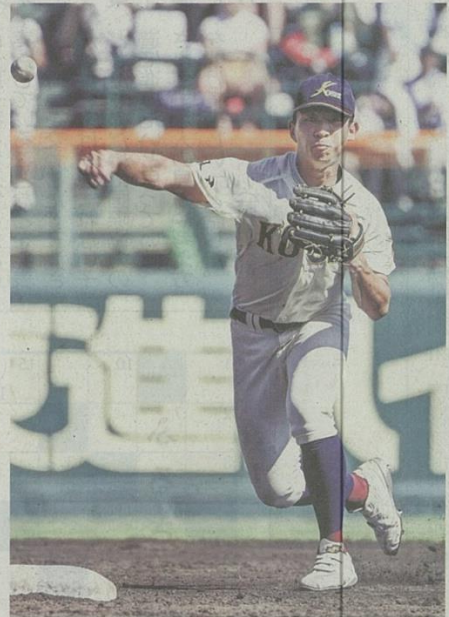


4年ぶりのベスト8進出を果たし、応援団に手を振る
八学光星ナイン

「最後まで気が抜けなかった」

八学光星・仲井監督「相手が粘り強く、最後まで気が抜けなかった。投手を中心に守り勝てた。ほっとしている」

堅守光り、見事な2併殺



【文芸芸大付―八学光星】内野の要として堅守を見せた遊撃手の中澤恒貴主将

○：八学光星の2投手は文芸芸大付打線に計10安打を許したが、3失点に抑えてリードを守り切った。大事な局面で内野の堅守が光り、二つの併殺を奪って相手に流れを渡さなかった。

六回一死一塁。三塁手の池田優斗が難しいバウンドになったゴロに突っ込んで好捕し、絶妙なタイミングで二塁へ送球。見事な併殺を完成させ、粘投を続ける2年生左腕・岡本琉愛を懸命にもり立てた。

八回には、U-18（18歳以下）高校日本代表候補の遊撃手・中澤恒貴主将にビッグプレーが飛び出した。岡本が適時打を浴びて2点を返され、なわも1死一塁の場面。

ここで背番号1の洗平比呂にスイツチした。

「洗平にとっては苦しい場面での登板だったので、野手が助けられればいいと思っていた」と中澤主将。中前に抜けるかと思われた強烈な打球を横っ飛びでキャッチすると、すぐに二塁手の西尾太晴へグラブトス。鮮やかな併殺に仕留め、ピンチを切り抜けた。

初戦も3併殺を奪った堅守の内野陣。中澤主将は「あそこでもう1本打たれていたら完全に相手へ入ると分かっていた。粘り強い守備ができたのは良かった」と連係プレーに手応えを示し、「今後も足元を見て、一戦必勝で頑張りたい」と気を引き締めた。